

須崎港において本邦と外国との間を往来する船舶と陸地との間の  
交通を行う場合に経なければならない場所の指定について

関税法（昭和 29 年法律第 61 号）第 24 条第 1 項の規定に基づき、須崎港において本邦と外国との間を往来する船舶と陸地との間の交通を行う場合に経なければならない場所を次のように指定し、平成 26 年 6 月 20 日から施行することとしたので、同法施行令（昭和 29 年政令第 150 号）第 22 条第 1 項の規定により公告する。

なお、須崎港において本邦と外国との間を往来する船舶と陸地との間の交通又は貨物の積卸を行う場合に経なければならない場所を指定する揭示（平成 17 年 3 月 14 日付揭示第 3 号）は廃止する。

平成 26 年 6 月 19 日

高知税関支署長 西本 朝男

本邦と外国との間を往来する船舶（以下「外国往来船」という。）と陸地との間の交通を行う場合に経なければならない場所は、次に掲げる場所とする。

係留施設名称 (通称)	外国往来船	交通経由場所
港町－10M岸壁 (港町1万5千トン岸壁)	左記係留施設に 係中の船舶	施設管理者が岸壁に 係中の本船と交通 すべき場所として設置 した出入口。
大峯1万トン岸壁 (大峰1万トン岸壁)	左記係留施設に 係中の船舶	施設管理者が岸壁に 係中の本船と交通 すべき場所として設置 した出入口。
日鉄ドルフィン（－13.5m・専用） 日鉄ドルフィン（－9m・専用） (日鉄ドルフィン栈橋)	左記係留施設に 係中の船舶	施設管理者が栈橋に 係中の本船と交通 すべき場所として設置 した出入口。
大阪ドルフィン（－7.5m・専用） (住友大阪セメント A バース)	左記係留施設に 係中の船舶	施設管理者が岸壁に 係中の本船と交通 すべき場所として設置 した出入口。
	上記各欄に係中 の船舶又は上記各 欄以外の係中若し くは入港中の船舶	港町栈橋通船発着場

須崎港において貨物の積卸を行う場合に  
経なければならない場所の指定について

関税法（昭和 29 年法律第 61 号）第 24 条第 1 項の規定に基づき、須崎港において貨物の積卸を行う場合に経なければならない場所を次のように指定し、平成 26 年 6 月 20 日から施行することとしたので、同法施行令（昭和 29 年政令第 150 号）第 22 条第 1 項の規定により公告する。

平成 26 年 6 月 19 日

高知税関支署長      西本   朝男

外国往来船と陸地との間の貨物の積卸を行う場合に経なければならない場所は、下表に掲げる場所とする。

係留施設名称	通称
港町ー 10M 岸壁	港町 1 万 5 千トン岸壁
大峯 1 万トン岸壁	大峰 1 万トン岸壁
日鉄ドルフィン（ー13.5m・専用） 日鉄ドルフィン（ー9m・専用）	日鉄ドルフィン栈橋
大阪ドルフィン（ー7.5m・専用）	住友大阪セメント A バース